特集《2025 大阪・関西万博》

拡張万博と未来

近畿経済産業局　**石原　康行**

要　約

万博の正体について、「国際博覧会条約」や「万博がこれまで果たした役割」などから、その本質を紐解き、2025 年に大阪で開催される「2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」の魅力やあり方を議論。

更に、大阪・関西万博開催で日本に残すべき「ソフトレガシー（無形遺産）」のイメージと共に、万博にシンクロする、万博会場外活動（場所の拡張）、万博会期外活動（時間の拡張）、自身の活動を万博のテーマと照らし表現する活動（テーマの拡張）など、万博の概念を拡げた活動「拡張万博」を提唱し、その具体的な活動イメージや、それに伴い必要な社会的機能を提案。

加えて、万博が開催されることにより期待される、万博の要素と親和性の高い産業の飛躍と、それを実現するためのこれまでにない組合せの共創（共創 2.0）及び、その環境の創出方策について提案し、未来の日本・世界と万博活動について述べる。

目次

１．はじめに
２．万博の正体
　２．１　国際博覧会条約
　　（１）　国際博覧会条約に見る万博の定義
　　（２）　人類の課題解決のための万博
　２．２　万博の実力と新たな万博への期待
　　（１）　日本にとっての万博の意味の変遷
　　（２）　投資としての万博
　　（３）　万博の実力
　　（４）　サイバー空間による万博不要論を考える
　　（５）「万博を知らない子供たち」の新発想万博に期待
３．「2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」
　３．１　万博開催国決定のプロセスと日本への期待
　３．２　概要
　３．３　大阪・関西万博のみどころ
　　（１）　パビリオン
　　（２）　未来社会ショーケースと催事／テーマウィーク
　３．４　大阪・関西万博の経済・社会波及効果
４．提唱！拡張万博
　４．１　大阪・関西万博の効果を高めるにあたっての問題意識
　４．２　ハードレガシーと２種のソフトレガシー（無形遺産）
　４．３　拡張万博とは
　　（１）　概要と特徴
　　（２）　拡張万博の具体的イメージ
　　（３）「TEAM EXPO 2025」プログラムの活用
　　（４）　テーマウィークとの同期
　　（５）　遠隔地・中小企業・学生の拡張万博について

（6） 拡張万博の推進事例（けいはんな万博など）
4．4 拡張万博における社会的機能
（1） 社会的機能例
（2） ポスト万博シティ
5．万博と未来
5．1 万博開催で期待される産業の発展
5．2 超共創
5．3 共創 2.0 と国際共創都市を目指して
5．4 未来と万博
（1） 指数関数的変化の直中で
（2） 悲惨な未来とならないための「万博という名の新たな何か」
6．まとめ

1．はじめに

2025 年 4 月から「2025 年日本国際博覧会（以下、大阪・関西万博）」が開催される。日本における初の国際博覧会（以下、万博）の開催は 1970 年の日本万国博覧会（大阪万博）であるが、今回の大阪・関西万博の実に 55 年前の事である。我が国では一部にこの大阪万博の成功・感動体験を熱く語る方がまだ根強くいらっしゃる一方、既に社会で活躍されている方でも、比較的若い方を中心に万博を経験したことが無い方も少なくない。

現在、例えば、地球環境・食料・エネルギー問題等々人類と地球の危機が叫ばれ、また、生成 AI が爆発的な勢いで進化しつつあるなど、我々の未来は全く予測し難い状況にある。

万博は、地球規模のさまざまな課題に取り組むために、世界各地から英知が集まる場であり、万博に集結する技術やそこでの議論が地球の未来を左右するといっても過言ではない。

この万博が持つパワーを最大限に発揮するためには、万博の本質や可能性を十分理解すると共に、時代の変化に応じ、これまでの万博ではない、全く新しい概念の万博を作りあげていく必要がある。

本稿は、万博の成り立ちや機能からその本質を検討すると共に、万博の概念を様々に拡げる「拡張万博」という新たな概念を提唱し、その具体的な方法論を提案するものである。

大阪・関西万博から「50 年後」に、安寧な日本・世界・地球を過ごす人類皆が、2025 年を振り返り、あの万博の議論や活動が今実ったんだと実感できる「未来」となることを期待する。

なお、本稿は自身の万博の経験や調査に加え個人的な見解を述べたものであり、あくまで属する経済産業省近畿経済産業局等の組織的な見解ではないことを申し添える。

2．万博の正体

万博とはいったい何なのか。多くの方はその定義や機能について、漠然と「大きな展示会」と理解されてはいるが、必ずしも正確な定義などが広く一般に理解されていない面も多いと思われる。

ここでは、国際博覧会条約やこれまで万博がなし得た成果などから「万博とは何か」を紐解きたい。

2．1 国際博覧会条約

意外にご存じない方も多いのだが、例えば、「○○万博」など「万博」と称するイベントが巷で多く開催されているが、そもそも 1970 年の大阪万博や 2025 年の大阪・関西万博などの国際博覧会は、自治体が招致するオリンピックや民間や自治体が開催する博覧会などとは違い、約 180 カ国が批准する「国際条約（国際博覧会条約）」に基づき実施される国家プロジェクトである。

この国際博覧会条約に基づき、国際博覧会事務局（BIE ／仏 Bureau International des Expositions）の本部がパリに設置されており、万博の方向性の検討や、加盟各国の申請に基づく「万博」としての承認等をおこなっている。

（1） 国際博覧会条約に見る万博の定義

国際博覧会条約の第一条には万博とは何であるかが定義されており、その主たる目的を「公衆の教育」と記述されており、万博は文明が求める人類の手段や活動、共創による成果や将来の展望を示すものであるとしている。因みに「公衆の教育」とは日本語では随分上から目線のワードであると思われがちであるが、英語（原文は仏語）の「the education of the public」の education を直訳したものだと思われる。この日本語の「教育」と「education」にはニュアンスの違いがあるようだ。具体的には欧米で言う「education」は、先生などが上から一方的に教えるだけではなく「自ら学ぶ」という意もあり、私は万博の目的について「皆で未来に向けた知識を得るもの」と解釈している。

なお余談だが、「博覧会」と「博物館」の意は近く、明治 5 年の湯島聖堂博覧会は翌年のウィーン万博出展の試行として実施されたので、この展示物を収めるために東博（東京国立博物館）が設立された（「博」は物事をひろく多く知るという意）。

昔と違い、現在は世界中で大規模な産業展示会などが開催されていることから、今日の万博の意義の低下を訴える向きもあるが、万博（万国博覧会）の「博覧」とは「広く見聞すること」を表し、商業目的の産業展示会とは趣を異にするものである。

また、万博は半年に及ぶ世界最大のイベントで、単なる展示だけではなく、地球規模のさまざまな課題に取り組むために、世界各地から英知が集まり、人類の未来に向けた方法論や展望が示される非常に重要な意味を持つ。同時に、日本が開催国として世界に技術や産業や文化・思想等をアピールするという意味においても大きなチャンスとなるイベントである。

（参考）

国際博覧会条約に基づく万博は、5 年に 1 度の比較的規模の大きい「登録博」と、登録博の間に開催される比較的小規模の「認定博」がある。

これまで我が国は、5 回の万博を経験しており、そのうち登録博は 1970 年大阪博（当時は一般博と称する）と 2005 年愛・地球博の 2 回だけで、2025 年の大阪・関西万博はこれに続く 3 回目の登録博となる。

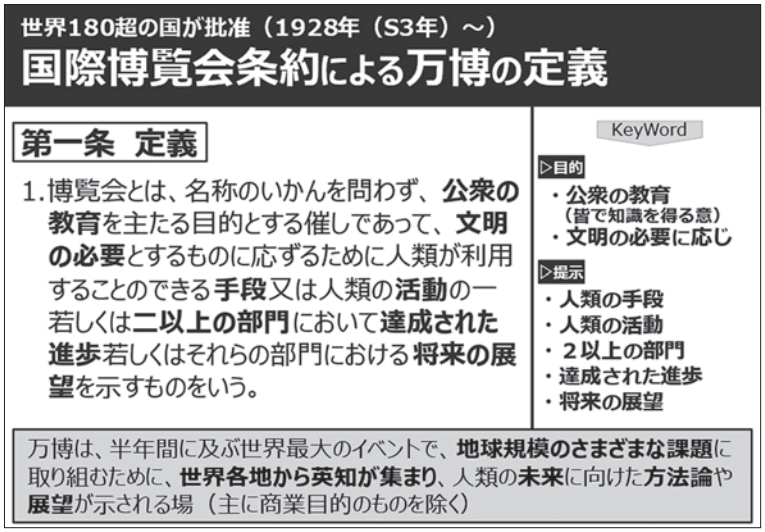

図 1　国際博覧会条約による万博の定義

（2） 人類の課題解決のための万博

1994 年に開催された国際博覧会事務局（BIE）の総会で、「万博は人類の課題を解決する場」である旨が議決された。具体的には、万博は人類の知識の向上、相互理解、国際協力への貢献を目的とし、未来展望を広く啓発し、専門家が交流し、民族が互いの文化を理解し合うものとしている。

２．２　万博の実力と新たな万博への期待

（１）　日本にとっての万博の意味の変遷

1)　坂の上の雲に驚愕

1867 年の第 2 回パリ万博で日本（幕府・薩摩藩・佐賀藩）は初めて万博に出展した。渋沢栄一始め日本から渡航し参加した日本人が、世界の技術発展や経済の仕組み（世界の大きさ）に非常に驚き圧倒された。この様子は NHK の大河ドラマ（2021 年「青天を衝け」、1980 年「獅子の時代」）等においても、そのシーンが紹介されているので、ご存じの方も多いと思われる。

2)　戦時下の地団駄

1940 年（昭和 15 年）に東京市（当時）で「紀元 2600 年記念 日本万国博覧会（東京万博）」の開催が予定されていた。「東西文化の融合」をテーマに世界 70 カ国へ招請状が発出され 4000 万人の入場を見込んでいたが、日中戦争の激化など事情により中止された。過去に、1890 年、1912 年にも国内で日本誘致計画はあったのだが、いずれも実現しておらず、ようやく開催予定までこぎ着けた当時の関係者はさぞ悔しい思いをしたことであろう。

3)　復興の象徴と未来への希望（発想の時代）

幻の東京万博から 30 年の時を経た、1970 年に「人類の進歩と調和」をメインテーマに大阪で開催された「日本万国博覧会（大阪万博）」は、1964 年のオリンピックと共に、日本が戦後復興し世界の一流国として世界に羽ばたく象徴であった。当時史上最高となる約 6400 万人の入場者を集め、連日、世界のお祭りを演じ、多くの若者が輝かしい未来に熱狂した。また「進歩」だけではなく「調和」をテーマとしているのも特徴的であり、人間同士や自然との調和の重要性を説いており、サブテーマを含め、今般の万博の精神と大いに重なるところである。

この万博では、多くの企業・才能が世界に飛躍するなど、21 世紀への夢や希望として、人々に大きな影響を与えた。かく言う筆者も小学校の時に 10 回以上万博に向かい、その時のパンフレットや写真・グッズと共に強く記憶に残り、以降の人生に少なからず影響を受けたことは間違いない。

また、この時代の日本の人々の発想も素晴らしく、例えば SF アニメでは、ロボットへの意識ダウンロード（エイトマン）や感情を持つロボット（鉄腕アトム）など、現在の最先端の技術発想を彷彿させるアイデアに満ちていた。

4)　21 世紀の新しい万博を先導

更にその 35 年後には、愛知県で「2005 年日本国際博覧会（愛・地球博）」が開催された。この万博は 21 世紀最初の万博で、かつこれまでの「国威発揚型」万博から 21 世紀の新しい万博の形である「人類共通の課題の解決策を提示する理念提唱型」の万博に変容を遂げた最初の万博として意義深いものだった。また輝かしい先進技術だけでなく、「自然の叡智」をテーマに、規格建築物（モジュール）の活用や市民参加によるコンパクトで省資源な環境配慮型のこれまでにない自然共生万博だった。

5)　そして 2025 年

渋沢栄一が世界の先進性に驚いたあの第 2 回パリ博から 160 年近く経た 2025 年、再び日本で万博が開催される。現在、地球環境問題やエネルギー・食料問題及び歯止めなき AI の暴走への驚異など、国連を始め様々な人類の危機が叫ばれており、今こそ地球を救う活動を「日本が主導」する万博となることが期待される。

未来が不透明な時代を生きる我々は、未来を予想した過去の先人のように、発想力を発揮して未来を予見できるであろうか。今を生きる我々の真価が問われるところである。

（２）　投資としての万博

万博は単に予算をかけて実施するだけではなく、それにより日本全体に裨益するリターンを伴うことから「投資」的な性格であると言える。私は、具体的な万博投資の分類イメージとして、次のように①未来への投資、②若者への投資、③経済への投資を掲げたい。

①未来への投資：課題山積の人類未来を救うための世界的検討

②若者への投資：未来を担う若者の啓発の場

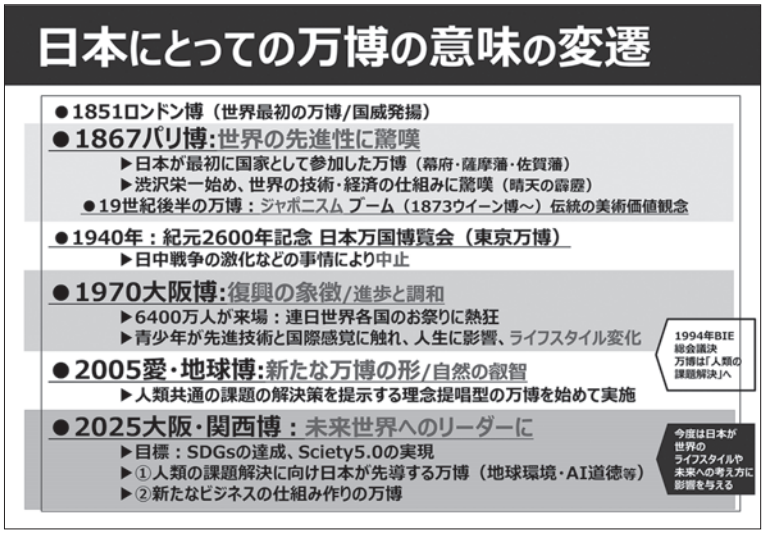

図２　日本にとっての万博の意味の変遷

③経済への投資：万博を契機に新産業創出と我が国経済の復権を狙う

この「投資」の特徴は、皆が「拡張万博」等によりそれぞれの魅力を出し合えば出し合うほど全体の魅力アップにつながり、皆が裨益するという性格のもので、反対に、協力する人がいなければ、全体の魅力は矮小化され、皆へ裨益することも少ないものであろう。

（3）　万博の実力

勿論、これまで万博では様々な未来が紹介され、万博を契機に企業が飛躍したり、世界にブランドが広まった事例は数多くある。1970 年の大阪万博では、少年少女が未来技術や海外に触れ、大きな夢となり、技術者や国際ビジネスを志向し、その後の日本経済の躍進に大きく繋がったといっても過言ではない。

他にも、ファッションや食などの文化や生活様式、或いは思想にまで影響を与え、また国際的なルールや仕組みを生み出したことも多く、一般に人々が思っているはるか以上に万博の実力は計り知れない。なにせ 160 カ国が一堂に集まって人類の未来や自国の自慢を展示し考えるような「装置」は他にはないのだから。

70 年大阪万博を実現させた立役者である故・堺屋太一氏は、「イベント・オリエンテッド・ポリシー」という言葉と共に、軍事関連（戦争）では一定の技術開発がおこなわれるが、それと比べものにならない人類が発展する方法論として「イベント（＝万博）」がある旨を表現されている。

勿論、これまで開催された万博の中にはそのような効果が少ない万博もあるが、今回の万博はこれまでの万博にない人類の未来への成果を生み出す万博にしたいものである。万博の実力を十二分に引き出すのも、単なる一過性

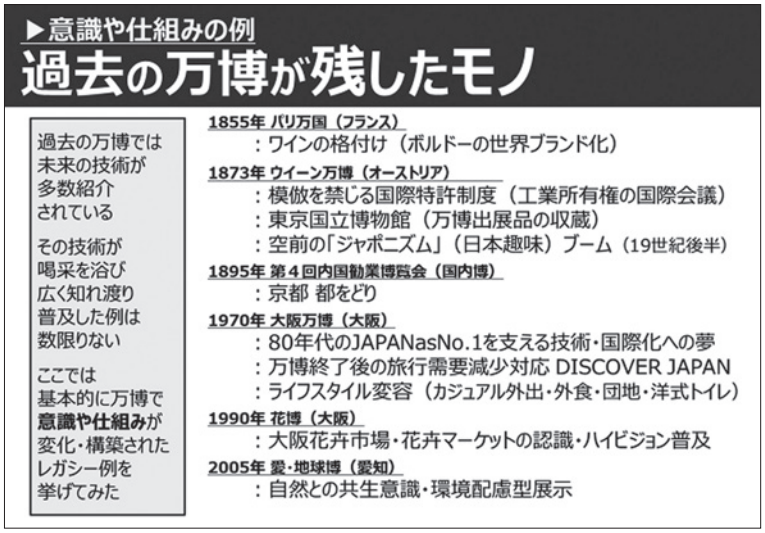

図３　過去の万博が残したもの（意識や仕組み）

のイベントにするのも我々次第ではないだろうか。

万博開催にあたっては数値化できない多くの波及効果創出をも想定した戦略的な展開が重要であると思料される。

（4） サイバー空間による万博不要論を考える

確かに現時点においてもサイバー空間上で一定の情報伝達は可能であるし、エネルギーやコストの面からも未来は更にサイバー空間での活動が発達することが考えられる。先のドバイ万博もサイバー上でも展開され2億人超が来訪したと伝えられ、当然、大阪・関西万博でもサイバー空間上でデジタルツインとなる万博が構築されることとなっている。

しかし、現時点ではサイバー空間はリアルな交流に比べ肌で感じる情報伝達力は大きく劣り、またディープフェイクなどの危険性もあり、将来的には非常に魅力的で本命となる方法論ではあるが、まだまだ発展途上のメディアであると思われる。

大阪・関西万博では、サイバーメディアを現実と比較し、現実の中で識者同志が議論することで、セキュリティも含め人類にとって理想的なサイバー空間の発展方向やルールを探るのも、今般の万博の役目ではないかと思われる。

（5）「万博を知らない子供たち」の新発想万博に期待

前述の通り、万博と言えば、日本ではやはり未だ50年以上前の1970年日本万博博覧会（大阪万博）の影響が強く、認定博としては2005年の愛・地球博が近く、これとて20年以上前の万博である。

前述の通り万博の概念を説明するも、実際に万博を見聞したことのない若者世代にとっては概念が浮かびづらいかも知れない。

しかし、世は移り変わるものであり、万博も例に漏れず進化が必要なことは言うまでも無い。過去の概念や成功体験に捕らわれることのない若者による新たな発想の万博に期待したいものである。

3.「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」

3．1 万博開催国決定のプロセスと日本への期待

万博の開催国は、国際博覧会条約締約国により、立候補国の中から投票（一国一票）により決定する（日本は開催国として立候補することを2017年に閣議決定）。

2018年に開催された国際博覧会事務局（BIE）の総会（本部パリ）で日本開催が決定した。私はこの決定の際に、大阪のとあるホテルにおけるパブリックビューイング会場で開票を見守っていたのだが、日付が変わった真夜中にも拘わらず、現地からの開催国決定を伝える映像に会場全体が沸き立ったことを印象深く覚えている。投票は無記名投票で行われ、ロシア等を押さえ、多くの国が日本での開催に票を投じていただいた。これらの国々の期待に応えるためにも、大阪・関西万博を成功させたいものである。

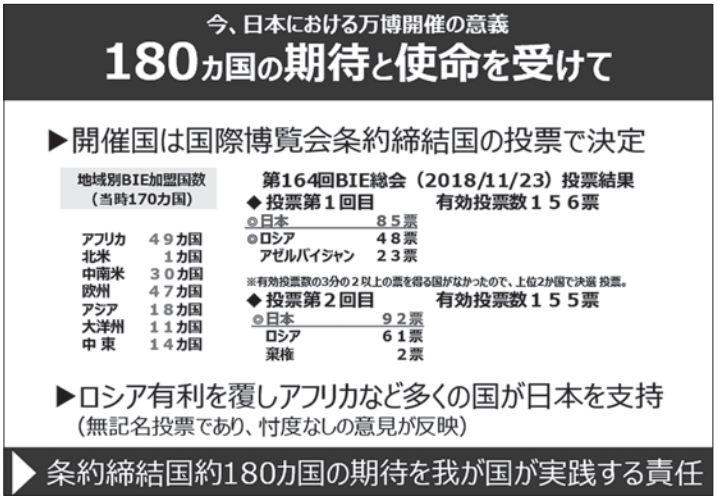

図4 万博開催の意義（180カ国の期待と使命を受けて）

３．２　概要

大阪・関西万博の概要は以下の通り

・名称：2025 年日本国際博覧会（略称：大阪・関西万博）

・開催期間：2025 年 4 月 13 日（日）－ 10 月 13 日（月）

・開催場所：夢洲（ゆめしま）（大阪市臨海部）

・テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン

・サブテーマ

Saving Lives	いのちを救う
Empowering Lives	いのちに力を与える
Connecting Lives	いのちをつなぐ

・コンセプト：未来社会の実験場 “People’s Living Lab”

・目標：SDGs の達成・Society5.0 実現

ただ、本稿では上記にとどめ、詳細については 2025 年日本国際博覧会協会（以下：博覧会協会）の HP をご確認いただきたい。

（https://www.expo2025.or.jp/）

図 5　2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の概要

３．３　大阪・関西万博のみどころ

（1）　パビリオン

万博と言えばパビリオンを想起される方も多いだろう。

大阪・関西万博におけるパビリオンの特徴の一つが、我が国が誇るクリエイターや頭脳たる有識者の方が、それぞれのテーマでプロデュースした、会場中央部に設営される「シグネチャー・パビリオン」だ。

また、万博の花となる国内企業パビリオンは 13 を数え、NTT やパナソニック、三菱などの万博常連組は勿論、バンダイナムコや吉本興業などの初登場組の顔ぶれも多彩であり非常に楽しみである。

海外からは 160 カ国が出展を表明しており、我が国も「いのちと、いのちの、あいだに　Between Lives」をテーマに日本政府館を出展する。

地元の関西でも、大阪府・市及び関西広域連合がパビリオンを出展し若返りの展示や世界に誇る魅力的な中小企業の展示も多く興味深い。

また、ウーマンズパビリオンとして女性の活躍をテーマにした特徴的なパビリオンも登場する。

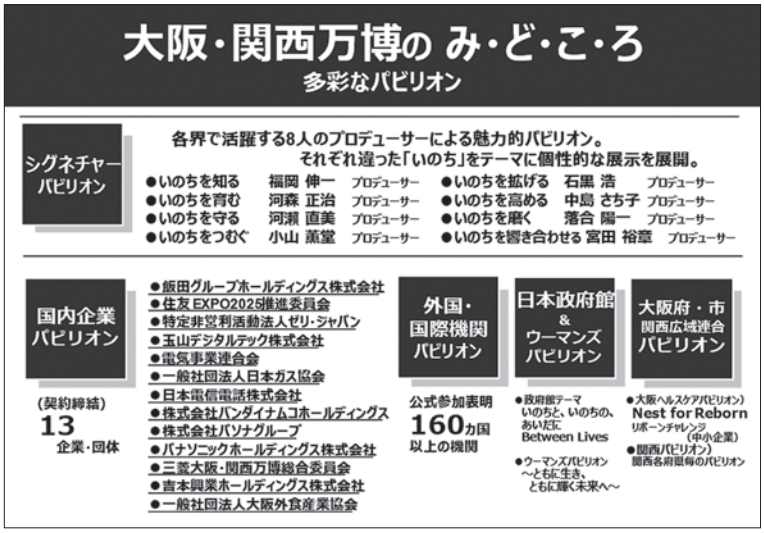

図６　大阪・関西万博のみどころ／多彩なパビリオン

（２）　未来社会ショーケースと催事／テーマウィーク

万博は前項のパビリオンが注目されがちではあるが、大阪・関西万博は「未来社会の実験場」をコンセプトに謳っており、「未来社会ショーケース」として、会場内に展開される「未来の体験エリア（フューチャー・ライフ・パーク）」や、会場を構成する様々なシステムに、最新の資源・IT エネルギー・などの最新技術が盛り込まれており、これらを確認するのも大きな楽しみである。

また、７つの会場で繰り広げられる多彩なイベントも貴方を魅了することであろう。なかでも、テーマウィークは１週間ごとに地球的な課題をテーマに設定し、対話や議論を展開するもので、半年間の長きにわたり同じ場所に集う万博の特性を活かし、地球的規模の課題の解決に向けて英知を持ち寄り、対話による解決策を探るものである。

図７　大阪・関西万博のみどころ／未来社会とテーマウィーク・多彩な催事

３．４　大阪・関西万博の経済・社会波及効果

ある民間シンクタンクの試算では、３兆円を大きく超える経済波及効果があると算出している。確かにこれだけでも大きな波及ではあるが、これは、あくまで数字として公表されている会場建設費や来場者の消費等に係る比較的カウンタブルな波及の算出であると思われる。

この効果は一般的な集客的事業の効果算出方法によるものであり、これだけが万博の経済効果と理解されるのであれば万博の過小評価につながりかねない。

むしろ、万博を契機とした取引や共創活動の開始・各社の宣伝効果、そして若者への効果や国際親善及び社会変

容等々の「万博だからこその効果」の方が意義として大きいと思われる（但し、効果を容易に数値化することは困難ではあるが）。

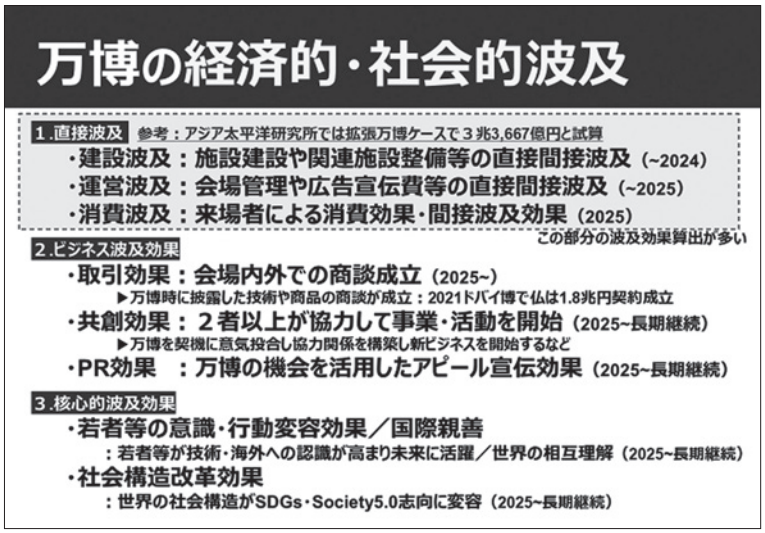

図８　万博の経済的・社会的波及

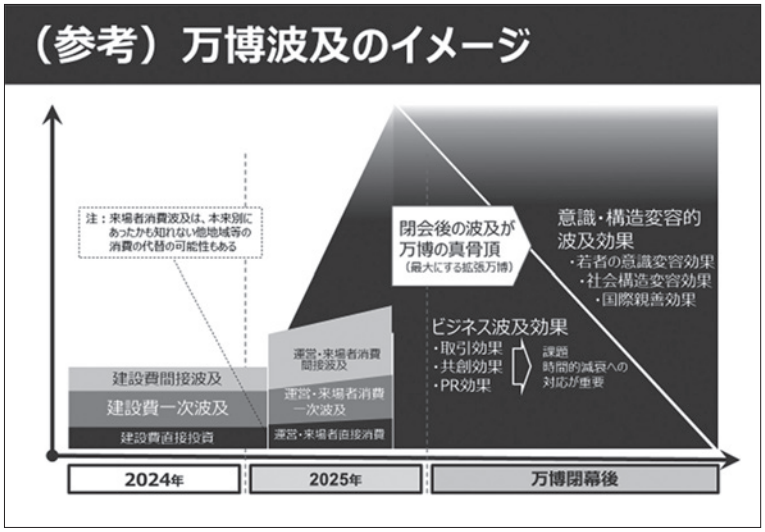

図９　万博波及のイメージ

４．提唱！拡張万博

４．１　大阪・関西万博の効果を高めるにあたっての問題意識

前項では大阪・関西万博の効果について述べたが、一方、この効果実現に向けての課題（問題意識）も存在する。以下にその課題を掲げ、このような問題への対処により、万博の効果を試算以上に伸ばすことも考えられる。

1）　会場面積（キャパシティ）の問題

今回の万博は、前回のドバイ博や70年大阪博に比べ会場面積は小さい（70年大阪博の面積比44％）。また、そもそも大規模なプラント設備や地域の景観事など、元々会場内展示では十分表現しにくいコンテンツも国内外に披露したく、会場内だけでの表現には限界がある。

2）　万博との関わり方の問題

会場内展示と関わりない企業の方などには、「万博は関係ない・利用方法が分からない」と思われている方も多い。

3）　閉幕後の地域経済縮小問題

これまでの万博は万博が終わると地域の経済が縮小するケースが多々あり、また株価が下落するといった傾向が見られ、今回は会期後も継続した活発な経済活動の発展が続く工夫が重要。

４．２　ハードレガシーと２種のソフトレガシー（無形遺産）

万博閉幕後にその成果として後世に残った遺産（レガシー）としては、昔のパリ万博で建設されたエッフェル塔や、70年大阪万博の太陽の塔などのハードウェアが有名だ。ただ、パリ万博でワインを格付けしたことで「ボルドーワイン」ブランドが世界的に有名になったり、万博に出展した展示品のアイデアの真似ができないよう「国際特許制度」が創設されたことなどもレガシーと言えよう。

私はこのような後者のように目に見えない無形のレガシーを「ソフトレガシー」と称しており、ハードレガシー以上に重要な万博の成果としてこれを念頭に万博を画策する必要があると思料する。

ソフトレガシーとしては、例えば70年大阪博では当時の若者が未来技術に感動してその後のエンジニアを目指したり、初めて外国文化に触れ、国際関係の業務に携わるようになるなど、若者などの意識変容をもたらした。私はこのようなレガシーを「意識のレガシー」と表現している。

また、もう一つのソフトレガシーとして、前述のワインの格付けや国際特許制度など、ルールや定期的なイベントが始まるなどの形となったソフトレガシー、つまり「仕組みのレガシー」が考えられる。

この「仕組みのレガシー」は70年大阪博では比較的少なく、今回の大阪・関西万博では特にこのレガシー創出を志向したいところである。

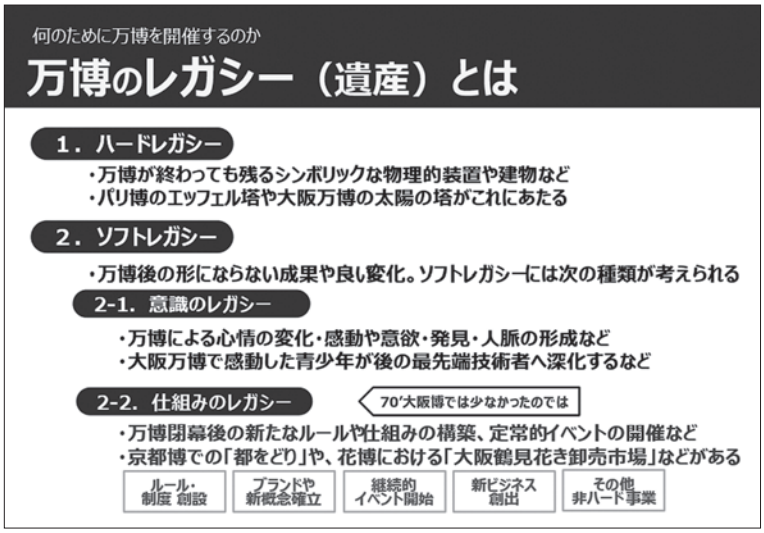

図10　万博の３種のレガシー

４．３　拡張万博とは

（1）　概要と特徴

前述の通り、万博会場のキャパシティには限度があるが、このキャパシティを超えて日本の魅力や最先端の技術などをもっともっと伝えたいところである。それを実現するためには、万博会場という枠に捕らわれず万博（と同様の活動）を進めることが有用と考えられる。

また、万博は長期イベントではあるものの、あくまで半年間の時限イベントであり、会期が終わると万博効果は薄れがちになるのは必然と言えよう。従って、会期前のプレ万博活動は勿論、会期が終わっても万博の効果が続く工夫や活動が非常に重要であると思われる。

更には、「いのち輝く未来社会のデザイン」という万博のテーマは非常に意味深く、それぞれの活動と照合することで大阪・関西万博との関連性を確保した活動が可能である。

私は、このような、会場外・会期外の様々な分野における未来に向けた活動を「拡張万博」と称しており、このような活動を充実することで、万博効果をフルに高めることが可能であると思料する。

「拡張万博」は基本的に万博会場外での自由な活動であり、主催者の特性や意向に合わせ比較的自由に活動を展開することが可能である。ただ、万博と連携することにより万博の大きなパワーをもらい受け、万博の可能性・期待等を万博と分かち合うことで、平時の通常活動に比べ非常に大きな効果が期待できる。会場外・会期外であって

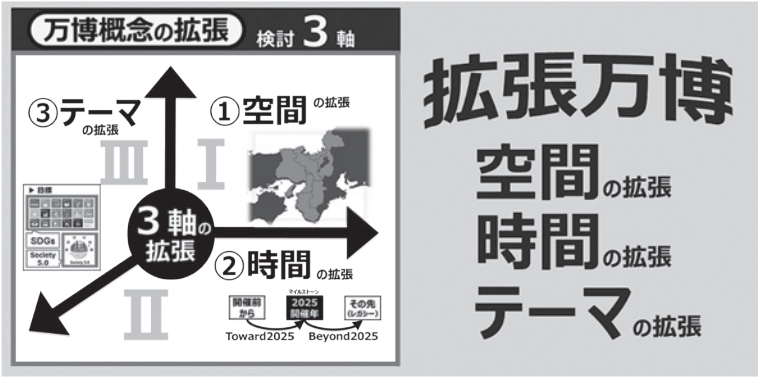

図 11　万博概念の拡張イメージ

も万博のテーマやコンセプト、国際性などの万博の特性と上手くシンクロすることで「拡張万博」の実現が可能であろう。

（2） 拡張万博の具体的イメージ

拡張万博の実現は、例えば、商談会場を設営したり、国際的な取引を試行したり、あらゆるものをパビリオンとして展示したりと様々な方法論が考えられる（日本全体をパビリオンライクなものとする）。ここでは、あくまで例示としてこのような方法で拡張万博を実現できるのではないかというイメージを幾つか提示し、読者の発想を喚起したい。

1） 裏方のパビリオン化

優れた工場の生産現場をパビリオンとして見ていただく（オープンファクトリー）など、これまで見せていなかった裏方をパビリオン化する。

更には、おもてなしサービスや大学など、普段公開していない施設やバックヤードなどもパビリオンとして公開し海外の関心を得ることが可能。

2） 商談会場

万博会場では過度な商業活動は基本的に制限されていることから、会場外の日本中で万博に併せ多くの国際的ビジネスマート会場を開設する。

日本企業だけでなく、世界のビジネスの取引のマートとして、万博会期後も日本が世界の商談会場としての機能を担うことを志向する。

3） 超観光パッケージ

地域の自然や文化や人々との交流及び体験アクティビティプログラム等を、トータルで最高の気配りでおもてなしする、これまでの旅行商品にない超アドベンチャーツーリズムを開発するなど、これまでの日本に少なかった新たな観光商品を提供する。

4） 国際交流

万博は、姉妹都市や友好都市は勿論、これまで交流が少ない都市などとの交流のチャンスであり、地域と地域が若者と若者が交流し、国際感覚を持つ若者が地域で育成される絶好の機会。

また、万博の機会に来訪される世界のビジネスマンから、世界に眠れる素材等々を発掘し、商談を試みるなど、ビジネス交流の観点からもチャンスである。

5） 地域連携

周辺地域と連携し、万博の来訪者を自地域に案内・誘客し、地域の良さを感じていただき、消費や観光及び共創活動の契機となるような流れを作る。

また、世界中の自地域と共通する特定テーマで関連する他地域と連携し、会場から遠方の地域の距離的短所を会場近傍地域が補い、その逆も相互補完することにより、地域同士が WinWin となるような仕掛けとすることが考えられる。

6） 地域ホットスポット創成

万博開催のパワーを活用し、各地において、開催期間中やその前後に地域を世界的な特異点（ホットスポット化）にするための特徴的イベントや世界的情報発信を考える。

例えば、様々な分野で、自身の情報に加え、世界の情報をも発信（オウンド・メディア化）することで、当該分野における中心的存在となる。

各地・各社から、世界に向け地球を守る正義の「世界宣言（メッセージ）」を発信する。

万博のコンセプトやテーマとの共通性を見いだし万博とシンクロする新たな国際的定例フェスティバルや国際会議や国際学会を創設し万博と並行的に実施する等々が考えられる。

（3）「TEAM EXPO 2025」プログラムの活用

今回の万博は、実施機関である博覧会協会が、「TEAM EXPO 2025」プログラムという制度を用意している。これは、大阪・関西万博のテーマや SDGs の達成に貢献するなど、万博と連携する共創活動やグループを登録する制度で、現時点でも 2000 近いチームが登録されており、万博開催前から発表会や登録者間の交流会などの様々な活動を展開している。

登録されているチームの内訳は企業活動からボランティア活動まで様々であるが、このような万博会場に依らない活動も万博の活動の一環として登録されるのは万博史上初であり、まさに拡張万博の一つの形としてこの制度を活用し万博との関連性を訴求し活動をアピールすることも有効である。

なお、「TEAM EXPO 2025」プログラムは、具体的な活動主体となるチームそのものである「共創チャレンジ」と、その活動を支援するチーム「共創パートナー」の 2 種の活動登録に分かれており、いずれも万博会場の中においても「TEAM EXPO パビリオン」という名称で発表や展示の機会が用意されている（有料）。

（4） テーマウィークとの同期

また、前述の通り、万博では万博のテーマを細分化した 8 つのテーマについて、会期内の各週にわりあて、同一テーマのもと催事などを展開する「テーマウィーク」を設定している。

拡張万博としての活動も、この「テーマウィーク」と歩調を合わせることにより、万博の連携活動として世界への発信力が高まるものと思われる（テーマウィークコネクトと称する）。

万博会場外の拡張万博を万博本体のテーマウィークと全く同時期に開催することも考えられるが、万博のテーマウィーク開催直後に、万博で登壇された人物やオーディエンスなどによる更に一歩踏み込んだ議論やスピンアウト／オフ会なども非常に有効であると思われる。

（参考）テーマウィーク ―週間毎に地球的課題を設定し議論

世界が半年間の長きにわたり同じ場所に集う万博の特性を活かし、地球的規模の課題の解決に向けて英知を持ち寄り、対話による解決策を探る。

期 間	テーマ	テーマ（問い）
4／25(金)～5／6(火)	未来への文化共創	多様な文化が共鳴し、未来への文化が共創されるために、私たちは何をすべきか？
5／15(木)～5／26(月)	未来のコミュニティとモビリティ	誰もがその人らしく生きられるコミュニティとは？
6／5(木)～6／16(月)	食と暮らしの未来	全ての人々が食と暮らしに困ることがない未来はどのようにすれば実現できるのか？
6／20(金)～7／1(火)	健康とウェルビーイング	一人ひとりのウェルビーイングが共鳴する社会をどう実現するか？
7／17(木)～7／28(月)	学びと遊び	AI時代において人は何を学べば良いのか？
8／1(金)～8／12(火)	平和と人権	あらゆる差別をなくし、互いを尊重し合う社会を実現するために、世界は何をすべきか？
9／17(水)～9／28(日)	地球の未来と生物多様性	豊かで多様ないのちが住む地球を未来に残すために、私たちは何をすべきか？
10／2(木)～10／12(日)	SDGs+Beyond いのち輝く未来社会	SDGsは達成できるか？そして、その先はどうする？

図 12 （参考）テーマウィーク

（5） 遠隔地・中小企業・学生の拡張万博について

万博会場から離れた地域の方は、万博とシンクロすることは難しく、例え連動しても連携の効果は薄いと思われているのではないだろうか。また、中小企業や学生の方などは、予算的に万博と連携した活動には限界があり、困難であると思われているのはないだろうか。

確かに、大阪・関西万博は地元の関西に一番経済効果をもたらすと思われるが、海外から来訪される方にとって、日本国内の距離はさほど問題にならない。むしろ、海外の方を各地に招聘される際に、「ついでに日本の万博にも来訪可能」とのメッセージをもって、万博を活用して自地域へ誘客促進されては如何であろう。

万博には既に多くの中小企業が出展予定だが、会場内に限らず会場外・会期外においても、前述の「TEAM EXPO 2025」プログラムへの登録を始め、拡張万博概念の活動アイデアが多く考えられるであろう。

学生の方であっても、ボランティアを始め万博と連携した活動が多く考えられ、例えば、学園祭の時には、外国語の表記や案内を付け加え、万博とともに外国の親善校等を学園祭に招待してはどうだろう。それ以外にも、自分たちの意見を世界に発信するチャンスであり、若い柔らかな頭脳で、是非万博を活用したアクションを考えていただきたい。

万博は人類の未来に向けての課題解決を考える場で、このような大きな問題解決は、個人レベルの活動では困難であると思いがちである。しかし現代は、個々の人々や多くの企業がその課題に向き合い個々のミクロな課題解決に向かう行動の積み上げによる方法論が非常に有効である。身近な課題から人類の課題までシームレスに議論し、それぞれが解決策を考えることが重要ではないだろうか。

（6） 拡張万博の推進事例（けいはんな万博など）

例えば、万博の機会を活用した定期的な国際芸術祭の創設や拡張計画やヘルスケア関連の展示会など、様々な活動が考えられている。また、内閣官房で実施する万博国際交流プログラムと称する国際的な地域間交流を支援する制度などにより、多くの自治体が万博開催前から国際交流活動を展開している。

更に、関西では八尾市や東大阪市など、万博と連携した活動に熱心な自治体が多く、この動きは関西以外の地域にも広まりつつあり、万博開催のパワーを地域の振興に活用する様々なアイデアが試行されているところである。

なかでも、我が国有数の研究機関が集積する「関西文化学術研究都市（けいはんな地区）」では、「けいはんな万博（仮称）」として万博と連動する都市からのイノベーション創出を目指しており、昨年6月には「けいはんな万博2025基本計画」が策定され、同10月にはプレイベントとしてアバターロボットの運動会である「けいはんなアバターロボットチャレンジ」が開催されたところである。

4．4 拡張万博における社会的機能

各地・各所で万博と連携した拡張万博概念の活動をバラバラに推進するだけではなく、活動のパフォーマンスを高め、継続的な活動の原動力となるべく、社会的な機能として何らかのプラットフォーム的機能の構築が重要であると思われる。以下、万博開催に併せ、このような社会的機能があれば良いのではないかと思われる私見を述べる。

（1） 社会的機能例

1） 情報クリアリング

情報クリアリングとは、どこでどのような拡張万博が行われているかなど、拡張万博に関連する様々な情報の所在を整理することで、各拡張万博活動の促進や連携・効率化を図るものである。

例えば、整理すべき所在情報の一つとして、各所におけるイベント情報などが考えられる。一般の参加者などがどこでどのようなイベントが行われているかをマップやカレンダーなどで情報が整理されていれば非常に便利であり、イベントへの参加が促進される。

また、各地のコンベンション施設の一覧など、主催者が活動を企画・実施する上で必要な情報を整理・公開する

ことで、企画における利便性を高め、活動が一層促進される事なども考えられる。

2)　リソースの融通・共有サポート機能（人材・資材等）

また、そのような情報と共に、そこで能力を発揮した人材を他の活動においてもご活躍いただいたり、利用して役目を終えた資材を別の活動での利用を促進するような、産業リソースの相互融通・共有をサポートする仕組みの構築が望まれる。

3)　共創コミュニティ（組織化）と共創フィールド

更に拡張万博を推進する方々やこれから万博を契機に何か活動したい方、様々な有望コンテンツを保有する方など、拡張万博に意識の向く人材等を組織化し、常設のコミュニティを構築することも有効ではないだろうか。

組織には様々な属性の方々が混在し、これまでにない交流や共創が生まれる事が期待される。

このようなコミュニティなどの交流の場（フィールド）として、テーマの工夫など戦略性をもったアゴラ（広場）や、共創アイデアを披露する場（拡張万博版 TED)、など工夫をこらしたある種の社交場ができないだろうか。

4)　お節介サポートと公的認定

上記、コミュニティや共創の場の運営にあたり、一定の「共創仮説」を提示し、マッチングのお手伝いをする「お節介機能」などがあれば有用であろう。

仮説に基づくマッチングは、偶然の出会いをより確度の高い出会いにすることを可能とする。そのためには仮説の設定力が非常に重要であり、また、その仮説には是非「万博の理念の実現と世界をより良く変える」といった大きな理念を含んだものとしたいものである。

また、様々なサポート機能を外部に求めることも有効であり、外部の人材や資源にスムーズに協力いただくためにも、予算措置に加え、人材等を公的に認定する制度（お墨付き）なども必要ではないだろうか。

（2）　ポスト万博シティ

万博は長期的なイベントであるが、ともすれば閉幕とともに熱が冷め成果が消失する可能性もあることから、このような万博の成果を引き継ぐプロジェクト活動が非常に重要である。

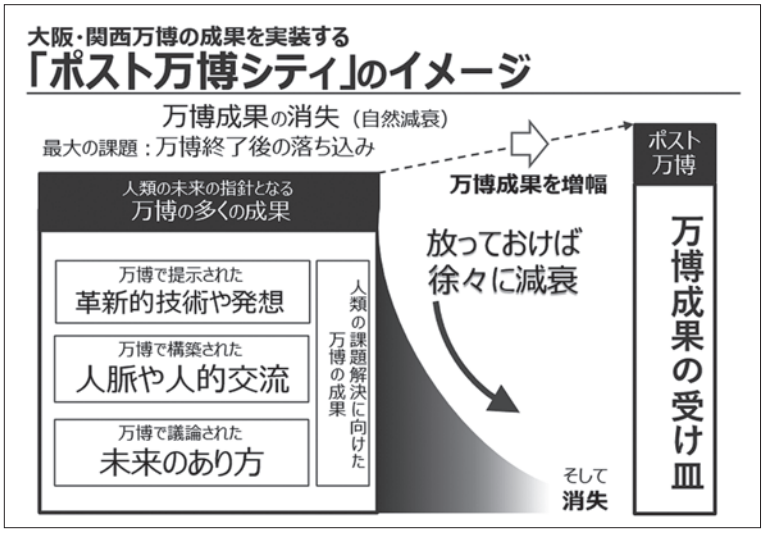

図 13　万博の成果の受け皿としてのポスト万博シティのイメージ

万博に関連する国の機関の様々なプロジェクトを掲載した「万博アクションプラン V5」では、このような地域を「ポスト万博シティ」として支援する旨の施策が掲載されたところである。

5．万博と未来

5．1　万博開催で期待される産業の発展

今回の大阪・関西万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」であり、例えばこのテーマは即、バイオ・医療産業等との親和性が高いことが想起される。また、目標である SDGs の達成や Society5.0 の実現からは、エネ

ルギーやITの先端的技術も大きく関わってくるであろう。

万博は2820万人という多数の来訪者を想定した大規模イベントであり、来訪者による地域への消費や魅力も期待されるが、それ以上に、明日の日本を見据え、この万博のテーマやコンセプトにしたがった産業の発展を志向すべきである。

特に関西はこの万博のテーマにダイレクトに通じる「医療・薬品・ヘルスケア」や「伝統・文化・食」そして「エネルギー」などの産業の集積があり、このような分野の一層の飛躍が期待できる。また、万博のテーマや方向性と親和性の高い研究開発プロジェクトや地域活動についても、万博と様々に連携することで既存プロジェクトの一層の飛躍も望めることと思われる。

「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマが表す意味はとても深淵であり、あらゆる産業をこのテーマと照合することで、様々な発展のイメージが見えてくるのではないだろうか。

５．２　超共創

前述の「TEAM EXPO 2025」プログラムに見るように、大阪・関西万博は「共創」による活動や事業創出を志向しており、併せてコンセプトである「未来社会の実験場」の通り、これまでにない様々な分野の組合せ（超共創）による、未来に向けた新たな「何か」の創出を様々に試行・実験するチャンスであろう。

これまでにない超共創の組合せは、単なるセレンディピティ（偶然の出会い）によるだけではなく、一定の仮説の下にマッチングや交流を図ることで、より高濃度の（密度が濃く成功確度の高い）組合せが発見できるものと思われ、共創する企業それぞれの特徴を活かした全く新しい産業の創出が期待される。

参考までに、「未来の食」をイメージした産業連鎖図を考えてみた。これまでは食の範疇に無かった産業も、新たな食産業として非常に重要な役割を担う可能性があるのではないだろうか。

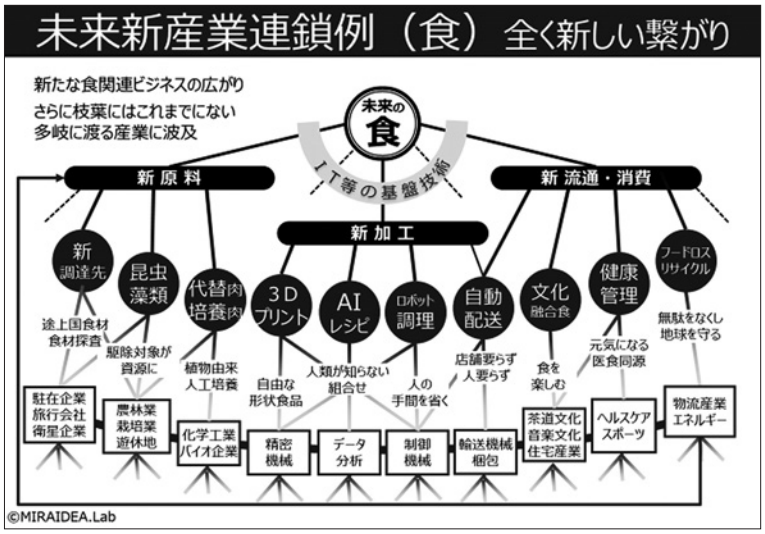

図14　（参考）未来新産業連鎖表（食）

５．３　共創2.0と国際共創都市を目指して

我が国は、一人の傑出した才能からだけではなく、違う才能が協力する「集団脳（コレクティブ・ブレイン）」により新しいものを生み出すことに長けている。万博を契機に共創を志向した能力の集まりとなる「コレクティブ・ブレイン」組織の組成が望まれる。

そして、その「コレクティブ・ブレイン」組織から、これまでとは違う組合せの共創（仮に「共創2.0」と称する）活動が数多く創出されることを期待したい。

言うまでも無く、大阪・関西万博は約160カ国の人材が参集する国際的な希代のイベントであり、世界中の人材や技術が向こうからこちらに来訪いただける。これまでの多くの共創は、最適解ではないかもしれないが手軽な近傍のリソースとの連携が中心であったが、万博は最適な世界中の相手と比較的容易に交流することができるチャン

スである。そのような共創により、「いのち輝く未来社会」との親和性のある未来社会への検討や実証が数多く行われ、その結果を世界に発信することが必要であろう。

そして、万博の機会に共創 2.0 活動を展開するだけではなく、万博閉幕後も様々に共創 2.0 のマッチングや活動等を継続・発展することで、我が国の各都市を国際産業交流の十字路たる「国際共創都市」としての実績の積み上げと、そのブランドを世界に確立したいものである。

５．４　未来と万博

（１）　指数関数的変化の直中で

近年、「Stable Diffusion」や「Midjourney」といった画像の生成や、「ChatGPT」などの LLM（大規模言語モデル）による文章作成などのジェネレーティブ（生成）AI は、その驚異的な能力から瞬く間に世界中の話題となり、本年 2 月に発表された「Sora」は簡単な文章（プロンプト）から精緻な「動画」を生成するなど世界を驚かせている。こうしたレポートの執筆中でも次々に新たな AI の情報が飛び交っており、マルチモーダル化と共にその未来は計り知れない。

このようなあまりにも急激とも感じる AI の発展を見ると、将来、AI は自立的に判断する「強い AI」へと進化し、AI が人類の全知を超えるいわゆる特異点（シンギュラリティ）が到来するというのも納得できるように思える。

また、AI に限らず、地球環境、エネルギー・食料・医療等々、万博がテーマとする様々な状況について加速的・指数関数的な変化や進化を目の当たりにすると、未来は人類にとって良い未来になるのだろうかとも思えてくる。もしかして、人類の破滅につながるような悲惨な将来が待ち受けているかも知れない。

大阪・関西万博では「未来への対応」についてどのようなソリューションが提示され議論されるのであろうか、非常に楽しみである。そして、その議論が正しく世界に波及するなど、万博の実力が最大限に発揮されることが期待される。なお、そのようなソリューションの方向は、日本が向かうビジネスの大きなベクトルと合致していくことも肝要であろう。

（２）　悲惨な未来とならないための「万博という名の新たな何か」

例えば、今から 50 年後の人々の正確な未来などは予知できるものではないが、50 年後の人々が過去を振り返り、「2025 年の万博」で経験した「何か」、議論された「何か」、始まった「何か」があったからこそ、今の幸せな世界があると思ってもらうような万博にしたいものである。

そのためには、決して国家的な活動だけではなく、この万博で我々がなりたい未来をそれぞれが議論し、小さな活動でも皆がそれに向かってバックキャストしたアクションを実践することが必要であろう。これまでの万博とは違う「万博という名の新しい何か」に皆で向かっていこうではないか。

６．まとめ

以上、拡張万博などについて記述したが、本原稿執筆時点においても大阪・関西万博開催に対する見解は賛否両論あるところである。双方の意見は説得力のあるものも多く、今更ではあるが、筆者としては一概にどちらが正しいとは言い難い。

しかし、勿論、「拡張万博」は万博という核がなければ成り立たない側面もあり、また、更に様々な方法論も考えられると思うが、私は「拡張万博」の概念や精神は一定の普遍性があり、万博のような世界的イベントをチャンスとしてフルに活用し、我が国が世界の未来に向けたリーダーシップを取るべきであると思っている。「拡張万博」とは、様々な方々が同調し、拡張すればするほど人類や日本のためになり、また儲かるといったある種の「ゲーム理論」である。

そういった意味でも多くの方が「人類の未来と我が国の興廃はこの万博にあり」との気概のもと、各位・各所における拡張万博活動の展開を期待する。（この万博を機会に何か始めようではないか＝ Let’s begin）

（原稿受領 2024.3.27）